

注目のカウファミリー 第46回

ヒツコリーミー マノマン オパイン P EX-90

写真1



今回紹介するファミリーは、当コーナー初の無角遺伝子を受け継ぐカウファミリー「ヒツコリーミー マノマン オパイン P」です。当ファミリーは無角遺伝子に加えて好体型のインデックスカウとしての力も発揮しています。当団でもJP3H57628「カイザー(PP)」【写真8】とJP3H58111「ドラゴンボール(PC)」【写真10】が当ファミリーからの無角種雄牛として供用されています。

当ファミリーはペンシルベニア州エアビルに位置するエディー・ジョンソン氏が家族で経営するヒツコリーミー牧場に由来します。ジョンソン氏は1969年から無角遺伝子の改良に着手し、無角の雌牛や雄牛を買い集めました。その後、自家産の無角の牧牛「ラツスター(父:チエアマン)」によって牛群に無角遺伝子を広げ、無角ファミリー

としての基礎を築き上げました。当ファミリーで初めて無角遺伝子を保因した牛が「ラツスター」による娘「ハイコラミー ラツスオバダ P」です。1988年に誕生したオバダの無角遺伝子は、5代先の「ヒツコリーミー マノマン オパイン P」【写真1】まで途切れずに受け継がれています。今やヒツコリーミー牧場の4分の3以上を無角牛が占めています。

当ファミリーは優れた乳器と肢蹄、深さと幅に富んだ力強いフレームが特長で、特に理想的な肢蹄構造が高く評価されています。「オバダ」と娘「オベシヨン(父:エルトン)」、孫「オシー P(父:ベルウッド)」、やしゃご「オバダ P(父:シヨツテル)」は生涯生産乳量5万kgを突破し、優れた長命連産性を確立しました。

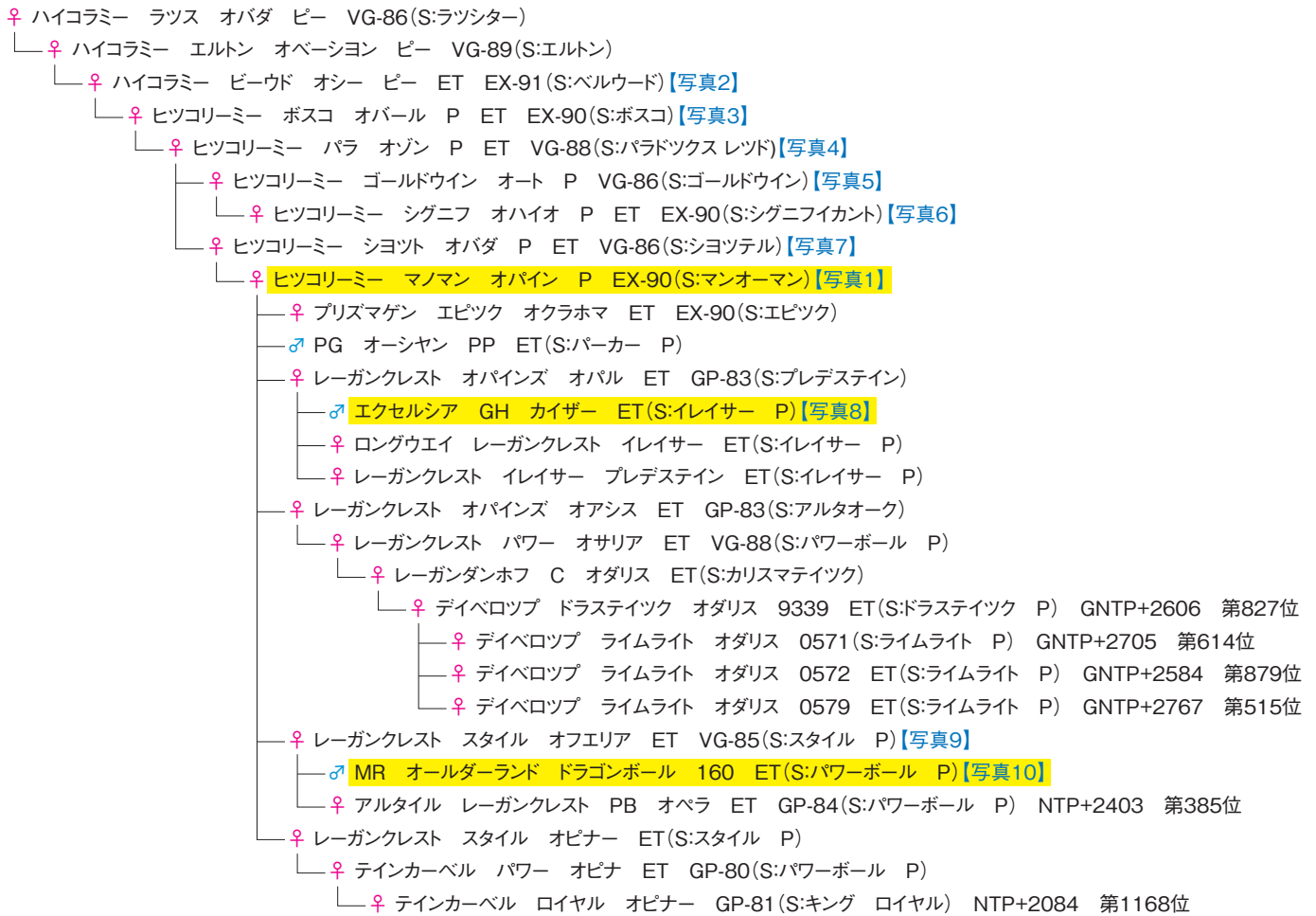
「オバダ」とその娘「オベシヨン」は長命性と繁殖性に優れる一方、体型改良が課題でした。そこに焦点を合わせて「ベルウッド」を交配した結果誕生したのが「ハイコラミー ビーウッド オシー P ET EX-91」【写真2】です。彼女は狙い通り体型を劇的に改良し、「オタワ P」や「オスワルド P」といった高インデックス無角種雄牛を輩出したことで当ファミリーが世界的に知られる契機となりました。

当ファミリーの代表牛「オパイン P」は無角遺伝子を持つ未經産牛の中でも、当時ゲノミック評価が4番目に高く、さらに無角遺伝子の改良に欠かせない「ローンボーイ P」が入っていなかったことから、アウトクロスの高ゲノム無角牛として一躍脚光を浴びました。2012年ナショナルコンベンションセールにて\$52,000でアイオワ州レーガンクレスト牧場へ売買されました。その後、彼女は初産から305日13,390kgと高能力を発揮し、8代連続VG以上を記録、自身もEX-90を獲得しています。「オパイン P」はOPUを利用した体外受精卵によって子孫を増やし、米国内だけでも雌雄併せて64頭を生産しています。無角遺伝子の需要の高い欧州でも高く評価されており、世界中へ血液を広げています。

「オパイン P」は特に高インデックスのホモ無角牛(PP)を生産したことで、無角遺伝子の改良を席卷しました。代表種雄牛にはホモ無角種雄牛としてアメリカとカナダで第1位にランキングした「オーシヤン PP」がいます。また、「オパイン P」の娘牛「レーガンクレスト スタイル オフエリア ET」【写真9】とその全姉妹「オピナー」はホモ無角の未經産牛としてGTPI第1位と2位にランキングし、授精所からの契約が殺到しました。当団でも彼女たちの受精卵を導入し、「オフエリア」の枝葉は剣淵町の鷺見翼牧場で、「オピナー」の枝葉は別海町の(有)オードリーファームで活躍しています。「オフエリア」の「パワーボール P」による無角種雄牛「ドラゴンボール」は、現在NTP第21位の好肢蹄・好繁殖の無角種雄牛です。

アニマルウェルフェアへの関心が高まる昨今、無角遺伝子の需要に応える注目のファミリーです。

系統図





注目の
カウファミリー FAMILY

HPに記事一覧掲載中! →

